

開闢法要（かいびやくほうよう）

この法要は幾世代もの前から、故人への篤い思いを縁のある寺院で真実の教え（浄土三部経）が拝読されることを願ひ、また、親鸞聖人のみ教えが一人でも多くの方に届くようにと願ひ、永代経懇志を進納頂いたことに支えられて営まれている法要であります。

永代経ご進納者は、自らが進納した懇志によつて法要が営まれ、そこでの参拝者に「法施」をして頂いたことになり、同時に寺院を護持する「財施」をして頂いたこととなります。

この度、報徳寺では故人のご遺骨をお納めし、その命日に読経を永代続ける永代経法要が営まれるよう設備を整えました。

その最初の法要を「開闢法要^{かいびやくほうよう}」と言います。開闢とは、一般に「物事の始まり・世界のはじまり」という意味があり、開闢法要は永代経懇志をご進納いただきました皆さまに対し、新たに仏縁に遇っていただきたく法要として行わせていただいているものです。これは真実の教えに遇わせていただく場であると同時に、今ここに真実のいのちの世界が開かれていくことを聞かせていただくことであります。この納骨永代経は自らの人生の拠りどころとした阿弥陀さまの教えを、幾世代もの先にまで伝えたいとする尊い行いでもあります。まことに深い願ひと大きな働きを感じずにはおれません。

次代に続く子孫たちはきっとこの願ひと働きに導かれて遇い難き阿弥陀さまに会うことができるでしょう。

この永代経は、未来へと続く子孫への世に向かって先祖の方々と同じ志を果たしたいとするものであります。